

第3学年5組 技術・家庭科 (家庭分野) 学習指導案

平成20年12月10日(水) 5校時
 指導者 T1 教諭 甲斐 みゆき
 T2 栄養教諭 川越 桂子

5 本時の目標
 幼児の心身の発達、基本的な生活習慣を理解し、幼児の食生活が一生の食習慣や嗜好大きな影響を与えることについて考えることができる。

6 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動		指導上の留意点、評価方法等	資料準備	
	導入	展開			
1	本時の学習内容を確認する。 【幼児の生活について考えよう】		T1 ○保育実習での幼児のふれあいや遊びが中心の生活の特徴を思い出させる。	T2 ○幼児がやる気の出るような大人の気持ちを持ちこたはかけをし、幼児の気持ちに理解できるようにする。	学習プリント ト 軍手 男子学生服 はし 豆類数種
2	幼児疑似体験をする。 <体験内容> 軍手2枚をつけて ①ボタツをする ②はしを使う		○疑似体験の際は、体験者を急かし、大人のこたはかけによって動作に変化が出ることに気付くようにする。	○幼児のいろいろな場面の写真を用意し、関心を高める。	
3	幼児疑似体験を通して、感じたことを発表する。		○当たり前に行っているはずの生活習慣が幼児にはなかなかできないことに気付かせる。	○食事の様子のパネルを並び替えさせながら、食べ方、食事内容に発達段階があることを理解させる。また、幼児期に食習慣や栄養面でも配慮が必要なることを知らせる。	○幼児の生活の様子 の写真
4	幼児期に身につけなければならない生活習慣について知る。		○「着ること」「食べること」は幼児期に身につけなければならない大切な習慣であることを確認する。		
5	幼児期の食生活について知る。		○幼児に対して、喜びや自信につながる態度やことばについて具体的に考えさせ、年長者としての自覚を持たせる。		
6	幼児の食生活での大人の態度を発見しあう。		○幼児に對して、喜びや自信につながる態度やことばについて具体的に考えさせ、年長者としての自覚を持たせる。		
7	栄養教諭の話を聞き、本日の献立から、どのような工夫できるか考える。		○自分の普段の食生活に改善する点はないか、家族の食生活で実践できることはいかにあるかについても考えさせる。	○これまでの学校給食での食事を振り返り、これから、あたりにまえの食事を、自分の力で整え、改善していくことと必要性、子どもたちへの食生活への重要性を助言する。	○調理見本
8	幼児とのかかわり方について、自分の考えをまとめる。				
9	次時の予告を聞く。		○本時の学習をもとに幼児のおやつ作りをすることを知らせる。		

- 1 題材 わたしたちと幼児の生活 (幼児の食生活)
- 2 目標
- 幼児の生活に関心を持ち、幼児の食生活について考えようとする。
(生活や技術への関心・意欲・態度)
 - 幼児の心身の発達を考え、幼児とのかかわり方や食生活の工夫ができる。
(生活を工夫し創造する力)
 - 幼児の食生活を通して、自分の生活にも目をむけ、食生活をよりよくしようとする。
(生活の技能)
 - 幼児の心身の発達の特徴や幼児期における基本的な生活習慣の形成の重要性を理解する。
(生活や技術についての知識・理解)

3 指導観
 (1) 学習内容
 本題材は、学習指導要領「B 家族と家庭生活」領域の(2) 幼児の発達と家族、(5) 幼児の生活と幼児との触れ合いの内容を含んだものであり、『幼児の生活に関心を持ち、幼児の心身の発達の特徴を知り、幼児との触れ合いやかかわり方を工夫できることくこと』をねらいとしている。発達を取り巻く環境は日々めまぐるしく変化している。家庭では少子化が進み、同世代以外とは触れ合う機会が少なく中学生が多い。こうした現状にある中学生が、家庭生活の学習に取り組み、異世代である幼児との交流を通して、幼児と自分とのかかわり方について考えようとする。幼児への理解をいっそう深めるばかりでなく、人間の成長、発達とそれに関わる家庭や社会を認識し、『自分を知らし』という機会になり、大変意義深いことである。

本学級の生徒は、日常生活の中で、幼児と接する機会に少ない。ほとんどの生徒が幼児を「好き」「かわいい」「一緒に遊んでみたい」と感じている一方で、子どもに対する具体的なイメージが持てないために、実際の幼児の生活を捉えにくい。幼児との関係が希薄であるために学習内容が深まりにくい現状があった。そこで、幼児との交流を取り入れ、幼児と触れ合う時間を設定した。その結果、保育実習を通して、幼児を身近な存在として捉え、学習意欲が高まり、学びの深まりがみられるようになった。また、食に関する部分では、毎日の給食を通して、理想的なバランスのよい食事を取ることができているが、普段の食事内容を見ると望ましい食習慣が身につけている生徒は少ない。

そこで、本時の指導にあたっては、保育実習で触れ合った幼児をイメージさせながら、幼児の手の動きを疑似体験として取り入れ、実感のある体験を通して幼児の心身の発達や基本的な生活習慣の重要性について考えたり、意欲的に問題解決の学習を進めることができるようにする。幼児の食生活については、幼児の食事の様子や当り前に食へている学校給食の献立から、発達段階に応じた食べ方や食事内容について理解させ、態度やかかわり方について考えさせる。学習活動においては、栄養教諭とのテーマードレームチャングを導入し、学校給食という実物を通して種類や分量、お好み味などについても触れ、具体的に考えさせる場を設定し、生徒の疑問やつまづきに少しでも多く対応できるようにする。生徒がこれからの自分の食生活にも目を向け、幼児を含めた家族の食生活をよりよくしようとする態度を育てるきっかけの一つとしていきたいと考える。

- 4 指導計画
 ○私たちがと幼児の生活(全3時間)
 ・幼児の食生活
 幼児の食生活について考える.....1時間(本時)
 幼児のおやつをつくらう.....2時間